

弘前市の高校球児による 野球活性化の取り組み ～高校球児による少年野球教室～

2019年2月2日
弘前学院聖愛高等学校
野球部監督 原田一範

1. 弘前市の現状 (データ出典 弘前市教育委員会)

① 児童数の推移

- ・ 2006年⇒9975人
- ・ 2016年⇒7374人

☆ **11年間で26%減 (2601人減少)**

② 少年野球選手数の推移

- ・ 2006年⇒1113人
- ・ 2016年⇒343人

☆ **11年間で70%減 (770人減少)**

2. 野球人口減少の要因

①親の負担が大きい

- ・ 当番制、送迎など（毎日練習）

②過熱した指導の悪循環

- ・ 親監督でただ怒鳴る指導が多く、始める人が少なく、やめる人が多い。
- ・ チームの人数が減っているのに、試合数は増える。

※年間100試合

（冬でも大会。肩肘痛で受診する児童が倍増。）

※毎週のように大会・・・

陸奥新報杯、全日本学童軟式野球大会弘前地区予選、弘前市スポーツ少年団野球交歓交流大会、弘前市スポーツ少年団秋季野球大会、青森県ジュニア選手権、河西招待野球大会、藤崎町体協会長杯、フクシスポーツ杯争奪楽天イーグルスキッズベースボール大会、大鰐町長杯あじやらカップ、BIGWEST BASEBALL CUP、とうしん理事長杯、あおもりカップ、東北学童新人弘前予選、大成カップ、青森県少年野球大会弘前市予選、マクドナルド杯、スポ少弘前市予選、青森県スポーツ少年団フェスティバル弘前予選、鶴田少年野球大会幡龍杯、まきの子カップ、白神ジュニア新人野球大会、MINAMI CUP、ウイナーズ杯、大鰐Jr.BC大会、アップルロードカップ、ガッツ杯少年野球大会.....etc.

③他の種目に比べて取りかかりが遅い

- ・サッカー、体操では、保育園に出張して教室を行っている。

☆ トライアル活動（2017年～）

高校球児による少年野球教室



①ねらい

少年野球チームに室内練習場を利用してもらう。

(雪国では、練習場の確保が困難)



選手の兄弟や、知り合い、近所の子
(未経験者)にも来てもらい、野球を
体験してもらう。



野球を始める子が増える！！

②時期

・1~3月(土日の10:00~12:00)

※子供、保護者が活動しやすい時間帯

③活動内容

1. 「野球教室」

⇒少年野球チームを対象に、高校生が指導する。

2. 「ちびっこやきゅうひろば」

⇒未経験の子供を対象に、野球体験スペースを設けて高校生が指導する。

④内容詳細

1. 野球教室

- ・コーディネーショントレーニングを中心に、
運動神経を高めるための練習

(定位、識別、反応、変換、連結、リズム、バランス)



- 遊び、競争などで、楽しく神経系を鍛え、
且つ、自ら考え判断する練習を実施



- 高校生と一緒に
野球の練習



2. ちびっこやきゅうひろば

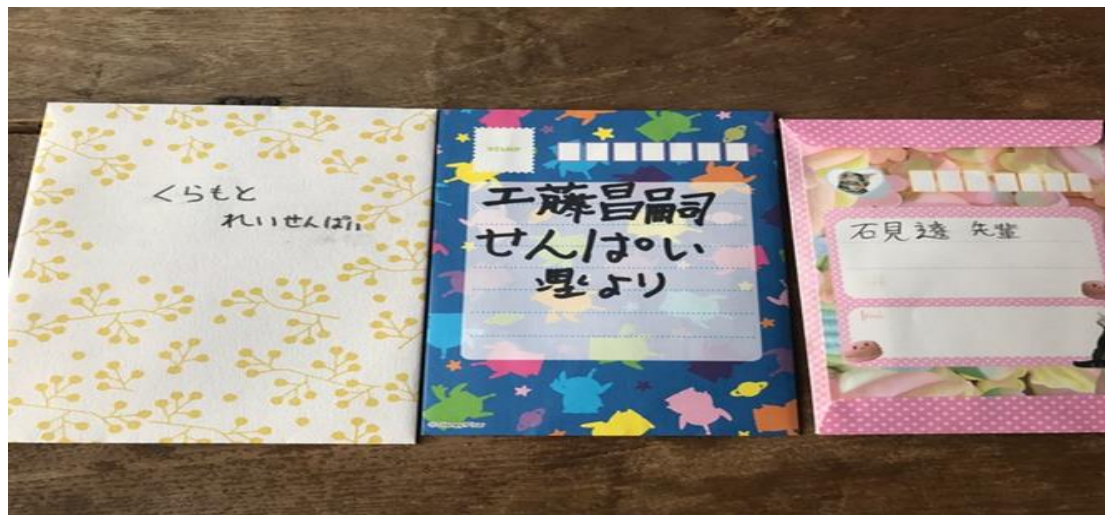
- 鬼ごっこなどの遊び
- ストラックアウト
- Tスタンドからのバッティング
- ならびっこ野球



④成果

※実績 = 8チームに対し、延べ20回実施。

- ①小学生が野球を楽しんでくれた。
(小学生から高校生に、感謝の手紙が届いた。)



②指導者や保護者に、少年野球のあり方や、やり方を知ってもらうことができた。

③未経験者が野球をやり始めた。

- ・その場で、親に「野球やりたい」と話している子が何人もいた。
- ・女の子も多く、未来に繋がると感じた。

④野球人口減少に歯止めをかける活動を、地域一体となって取り組むことができた。

(親御さんが野球教室のチラシを作って、近所の保育園に、参加を呼びかけていた。)

⑤ なによりも高校生が成長した。

- ・子供たちに上手くなってもらうために、喜んでもらうために、何度も何度も試行錯誤を重ね、企画、運営することにより、大きく成長した。
- ・教員希望者が増えた。（社会貢献活動の成果）



問題の野球人口は・・・

① 児童数の推移

・ 2016年⇒7374人

・ 2017年⇒7248人

☆ 1年間で2%減（126人減少）

② 少年野球選手数の推移

・ 2016年⇒343人

・ 2017年⇒442人

☆ 1年間で28%増！！

（99人増加！！）

新たなトライアル活動（2018年～）

高校球児による保育園での野球教室



①活動内容

高校球児が保育園に訪問し、
園児と野球で遊ぶ。

②内容詳細

ちびっこやきゅうひろば同様



③成果（保育士さんからの声）

①「子供たちの表情が、どの活動の時よりも輝いていた。」

※理由は、

- ・ やったことがない遊びのため新鮮だった。
- ・ 高校生との距離感が絶妙。

②「野球の遊び方がわかった」

- ・ 保育士さんがビデオを撮っていて、活動に取り入れると言っていた。

③ 「野球は社会性が身につくスポーツですね。」

※ならばっこ野球より

◎最初は・・・

打って一人で喜んで終わっていた。

ボールを、みんなで奪い合っていた。

↓（自然に園児の中で問題解決学習を始める）

- ・ 走ってベースを踏み、1点を取ることが目的だと学ぶ。
- ・ ボールを取りたい気持ちを抑え、みんなで手をつないでアウトにすることが目的だと学ぶ。
- ・ **沢山のルールがある中で、自分が犠牲になっても、仲間の成功や、目的達成を喜べる！！**



園長先生からのお言葉

▶ 高校生に対して、

**「あなた達は、園児たちにとって、
生きている教材だ！！」**

④ 今後の展望

2018年は、青森県高野連弘前地区が主催となり、弘前市内の各高校の野球部が、少年野球教室に取り組んだ。



今後は、これをモデルケースに、青森県高野連が県全体として取り組む予定になっている。



「高校球児による少年野球教室」が、将来的に、全国に展開していければ、日本全体の野球人口増加、高校生の育成、指導者育成に繋がると感じている。



ご清聴ありがとうございました。